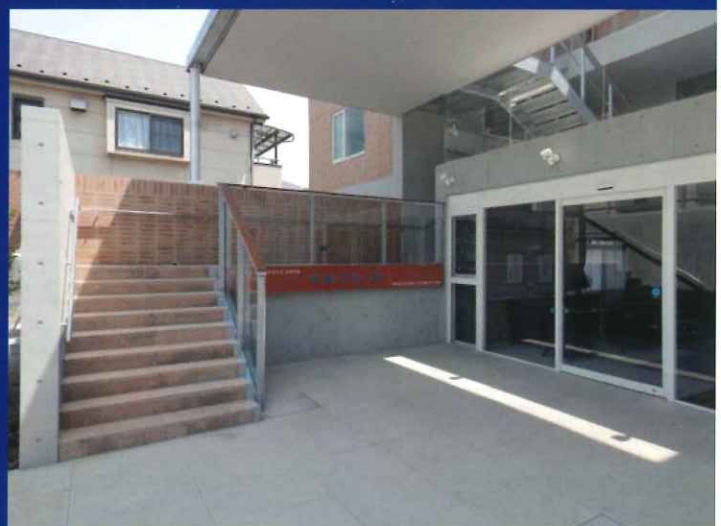


第70回全国児童養護施設長研究協議会記念
児童養護施設・自立援助ホーム
建築作品パネル集第2版



挨拶 (HIS 落成式(インフレットより抜粋))

本日は、お忙しい中、至誠大空の家の落成式においでいただき、心より御礼を申し上げます。

昨年、法人は創設100年を迎えました。今日まで児童・保育・高齢、各部門の福祉施設及び事業を、設置・経営をしてまいりました。特に、児童福祉部門は創設以来、時代の変遷の中で、常に児童・少年のために未来を意識しつつ、創設者の理念であります「まことの心」をもって、取り組んでまいりました。今日重篤化する、社会的養護を必要とする子どもたちや家庭に対し、至誠学園は数々の試みをしつつ、その政策に対し提案をしてきました。今、子どもたちの自立を支援するために、ユースアカデミープロジェクトを立ち上げ、さらなるエンバウメントへの支援としての施設づくりを考えたと考えています。この取り組みに対し、数年来数々のご支援をいただいたゴールドマン・サックス株式会社 代表取締役社長 持田正典様が深く共感していただき、新たな子どもたちの学び舎(至誠大空の家)の建設に多額のご寄付をもって参加していただきました。虐待・貧困・格差からの解放、そして未来ある子どもたちの自己実現を可能にするプロジェクトが実現することとなりました。

また、各種備品等に対する助成団体様のご協力も、この実現のためにさらにお力をいただきました。

数年前に開設した、年少児を対象とした児童養護施設「至誠大地の家」に続いてこの施設は、それぞれのコンセプトによってこれから運営されてゆくことと思っております。

児童養護施設に対する深い愛情とスキルをもって取り組むスタッフにより、我が国の児童福祉の成熟と成長に寄与できることを祈りつつ、皆様のご支援にあらためて心より感謝を申し上げます。

平成25年4月11日
社会福祉法人 至誠学園立川
理事長 高橋利一
(HIS 落成式(インフレットより抜粋))



地域とつながる子どもの家(児童養護施設)



子どもたちが集う「街路」



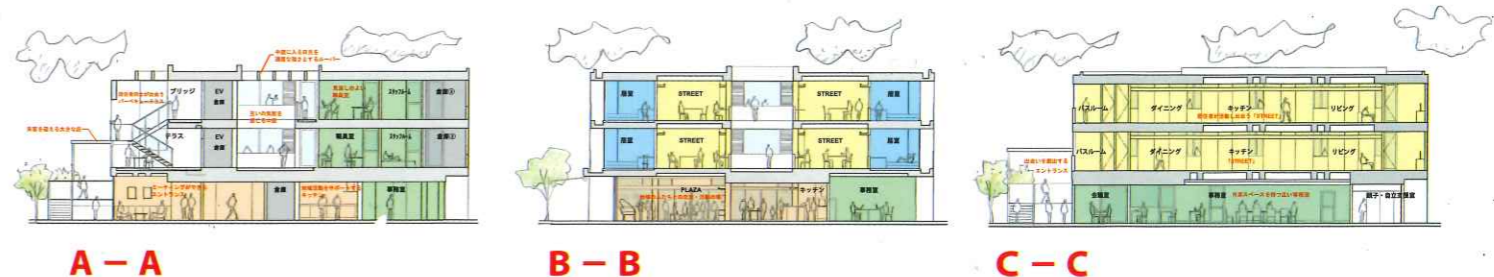
地域の人たちと交流する広間



「街路」に面して子どもたちの部屋がまちなみをつくる



中庭を介して他の家族(ユニット)の活動を見ることができる



施設コンセプト

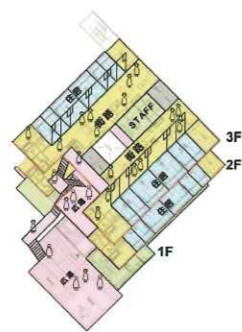
- 施設の名前**
「至誠大空の家」という名前には子ども達が空に力強く羽ばたいて欲しいという願いが込められています。子ども達が将来に夢を持って自立できるように支援します。
- ホームの名前**
子ども達が生活するユニットにはハヤブサ、フクロウ、オオルリ、ツグミとそれぞれ渡り鳥の名前をつけました。力強く飛び続ける渡り鳥のように社会へと羽ばたき、帰ってくる頃にはひとまわり成長した姿を見せてほしいと願っています。
- ユースアカデミープロジェクト**
学習塾との連携等、子ども達の学力向上に力を入れ、同時に奨学金等の環境整備を進めることで、将来に希望を持ち、夢をかなえられるように支援します。
- ドリームタウンプロジェクト**
法人内の保育園、関係機関と連携し、地域の子育て支援に施設の専門性を活かして、子ども達が豊かに成長していきける地域づくりを目指すとともに、在園児童が地域の福祉施設等での実習を通じて職業観や社会性を養えるような環境を整えます。

設計趣旨

- 子ども達の 出会いをつくる「広場」と「街路」
○きゆうくつな個室を出て「街路」に集う
子ども達のユニットは、8人×2、7人×2の4家族(ユニット)構成となっています。子ども達の部屋は2人と1人部屋の2種類あり、それが、「街路(ストリート)」と呼んでいるリビング・ダイニング・キッチンに面しており、ベッドルームには「街路」に面して窓が設けられていて、町並みをつくります。
個室は各々のお家になぞらえて、部屋に入ると光をとると、「街路」に対して光が漏れてくるようになっていきます。

また、個室は必要最小限の大きさでできおり、きゆうくつな個室を出て「街路」に集うのが自然であるように意図されています。

洗面、トイレ、洗濯機、乾燥機、ランニングマシン、乾燥機、ダイニングテーブル、キッチン、リビング、書棚、下駄箱などは、街路上に存在しており、街路の端には、風呂とシャワー室、物干場が配置されており、ほとんどの活動が「街路」上で行われ、最大限の「出会い」と「会話」が起こるように意図されています。



○広場で出会う

各ユニットに入る時には、かならず、「広場」と呼ばれる場所を通過します。片側通路形式のマンションでは、朝や夕方は歩く方向が同じなので、顔を合わす機会が生じませんが、この「広場」空間には階段や通路が配置されていて、違うユニットの子どもたちが顔を合わせるように工夫されています。



●中庭を介して一体感

同じ階のユニット同士、違う階のユニット同士が中庭を介して互いの気配を感じながら生活します。
スタッフルームは、中庭を介して、両方の家族(ユニット)を見渡せるように配置されています。子どもたちは、親がわりのスタッフにいつも見守られ、安心して生活できるようにもくろんでいます。



●近所の人たちと「会い」をつくる「農場(畑)」と「観測(テラス)」

近所の人たちは、「用」がなければ、この施設に来ることはないの、その「用」として、住民参加による畑づくりができる「農場」とバーベキューなどの活動が可能な「観測」を備えました。みんなで「集い」、農場をつくり、作物をそだて、そして収穫し、それを分け合う喜びを味わう。

そうやってつくった野菜などを保育園児や小学校の生徒とともに収穫するなどの交流もあってもいいかも知れません。どのように活用するかは、またみんなで話し合うのも新しい活動と出会いを生むかも知れません。「農場」と「観測」はさまざまな可能性を生みかけられて欲しいという願いが込められています。

●歴史を感じる

至誠学園には100年もの連続とした歴史があります。創設者稲永久一さんの意思が受け継がれ、このような施設に結実していった経緯は、知ると思えば分かるように、1階のエントランスと地域交流室に、資料や本を納め、また展示する棚をつくり、それが1階の空間に対してのファサード(顔)を形成するように空間に配置しました。

私たち後継者が未来をつくらうとする時、創設の原点に立ち戻れば、必ずやるべきことが見えてくると思います。

●エコロジーを考える

高効率の冷暖房や、熱損失の低い建物をつくるだけエコロジーではなく、エネルギーをじゃぶじゃぶ使わない、節約する心を育てることが地球環境上最も有効ではないかと考えています。簡単に言えば、人が賢くしなければ、地球環境問題は消えるということです。

●構造計画

東日本大震災で、特に型枠鉄筋工の労務費が高騰していたので、通常ならば、鉄骨造が合理的と判断されるはずでしたが、児童養護施設50年以上の耐久力が必要ならなければならない規定があり、鉄筋コンクリートR6級Xまたは、鉄骨鉄筋コンクリートR60-造)を使うことが推奨されました。

構造



周辺に壁柱(壁状の柱)を配置し、建物中央部には構造壁が出ない構造体としました。また、梁は、壁柱との力の伝達を合理的に行うために、壁柱の両側をはさむような形としています。その結果、内装の間仕切りは、将来的に移動したり、壊して広い空間として使えるユニバーサルな構造体となりました。

施設概要

- 定員 30名
- 4ユニット(1ユニット7~8名)
- 施設機能
 - 管理共有フロア
オフィス、会議室、医務・静養室、心理室、家族支援室、地域交流ホール、キャリアセンター
 - 男子生活フロア
ハヤブサホーム、フクロウホーム
 - 女子生活フロア
オオルリホーム、ツグミホーム
- 職員数 常勤職員15名、非常勤職員7名、合計22名
(内訳) 施設長、事務員、家庭支援専門相談員、個別対応職員、保育士・児童指導員、心理療法担当職員、栄養士、嘱託医
- 施設長 四分 美希

整備内容

- 土地
所在地 東京都日野市万寿寺1丁目14番地2号外3筆
用途 第1種低層住居専用地域
高度地区 第1種高さ制限10m
建築率 50% 容積率 100%
1,164.23㎡
- 敷地面積
- 建物
- 構造 鉄骨コンクリート3階建
- 面積 延床 1,150.64㎡(3階坪)

設計監理

株式会社渡辺建築都市設計事務所
http://www.owat.net/
2007年 第2回多摩のまちづくりデザイン賞 藤森照徳賞
2015年 都市景観大賞 都市空間部門 大賞(国土交通大臣賞)
2016年 キッズデザイン賞 内閣府大臣賞

施工

砂川建設株式会社

